

国指定特別天然記念物
田島ヶ原サクラソウ自生地 保全の取組



植生の管理



根気のいるノウルシ抑制作業（協力：埼玉大学のみなさん）



サクラソウとノウルシ

① ノウルシの抑制

ノウルシは、サクラソウとほぼ同時期に咲く黄色い花です。背の低いサクラソウはこのノウルシの日陰になってしまい、ノウルシの増殖はサクラソウの減少を強く印象づけます。一面のサクラソウ畑を期待する方からは敵視されることもあります。けれども、ノウルシ自体も絶滅が危惧される稀少植物、そしてサクラソウ自生地価値を構成する大切な植物です。サクラソウとノウルシの共存は、自生地の保全そのものに通じます。そこで、当面の間、ノウルシの上部を刈り取ることでその繁茂を抑制し、春季におけるサクラソウ生育環境の確保を目指しています。



オギやヨシをかき分けながらの抜き取り作業



抜き取った植物

②外来植物等の除去

自生地の植生を破壊する外来植物を抜き取っています。また、在来植物の中でも、自生地の環境変化に適合して増殖したものも、刈り取りや間引き等により抑制しています。真夏の草いきれの中での作業はとても厳しいものです。しかし、外来植物の侵入はやみません。



オギやヨシの刈り倒し作業



草焼きの様子

③草焼き

サクラソウの春期の芽吹きを助けるため、冬枯れしたオギやヨシ等を焼却します（草焼き）。これには、自生地の植生が草原から森林へと遷移するのを停滞させるというはたらきもあります。事前に自生地全体のオギやヨシを腰の高さで刈り倒して、煙や灰の拡散防止に努めています。



サクラソウの芽



サクラソウの花

田島ヶ原サクラソウ自生地は、大正9年（1920）に天然記念物に指定されて以来、今日まで大切に守られてきました。令和2年には、天然記念物に指定されてから100年目を迎えました。さいたま市では、今後も保全の取組みを続けてまいります。自生地の保全は、ここでご紹介した植生の管理だけでは十分ではないかもしれません。必要な対策を講じるための調査を現在進めています。この大切な、そして美しい自生地をみなさんに楽しんでいただき、次の世代へと伝えていくために、ご理解、ご協力をお願いいたします。